



4月19日に本校6年生を対象に実施した「全国学力調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、その結果の概要と本校の児童の状況をお伝えします。



総合結果（国語・算数・理科）

本校の平均正答率は、国語、算数、理科ともに全国平均を上回りました。国語は4.4P、算数は5.8P、理科は10.7P上回るなど、基本の学習が定着し、活用する力も育まれていることが伺えます。



国語科より



全体的によくできています。特に「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題は、全国平均を12p以上、また、「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」問題は、全国平均を10p以上上回り、日々の取組の姿勢がそのまま正答率の高さとなって表れています。さらに、「言葉の特徴や使い方に関する事項」でも高い正答率を得ました。

しかし、「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」問題の正答率が低くなっています。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことができるよう、働きかけていきたいです。

算数科より



全体的に高い正答率でしたが、特に「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している」かどうかを見る問題は18p以上上回っています。他の「図形」領域の問題についても、全国平均を上回る数値を示していました。

しかし、「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」かどうかを見る問題の正答率が低くなっています。「果汁が含まれる飲み物を二つに等しく分けても、飲物の濃さは変わらない」という生活経験を基にした判断と、果汁の量の割合を計算で求めた結果を関連付けて考えるといった捉え方に気付けよう、指導を続けてまいります。

理科より



全体的に高い正答率でした。特に、「粒子」を柱とする領域の問題が、高い正答率を示していました。「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している」かどうかを見る問題は、全国平均を23p上回っています。今後も、見通しをもって実験・観察を行うとともに、結果・考察・結論の区別を明確にした指導を継続していきたいと考えています。

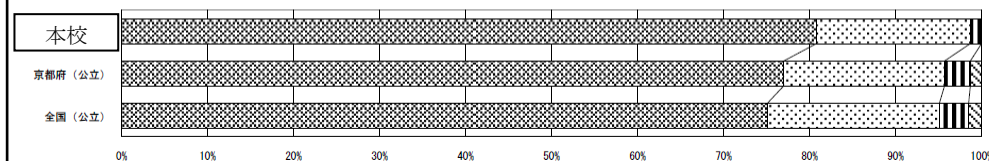
児童質問紙調査から

Q 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



☑1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☑3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☑その他 ☐無回答

【80.8%】 【17.9%】 【1.3%】 以下【0%】



本校では全国と比べ、「人の役に立つ人間になりたい」という思いをもつ児童の比率が高い傾向にあります。また、別の設問「自分には、よいところがあると思いますか」や、「将来の夢や目標をもっていますか」では、「当てはまる」と答えた児童の割合が全国平均よりも上回っています。

子どもが自己の将来の生き方を見据え、学校での学びと社会とのつながりや、わかる喜びと学び合う楽しさを実感できる授業を目指し、常に効果的な指導方法や指導体制の工夫改善を図るとともに、すべての児童の可能性を最大限に伸ばす視点を大切にして、今後も取組を進めてまいります。さらに、ご家庭と連携して進めていけますよう、励ましの声かけなどをお願いいたします。



保護者の皆様へ



全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。

今回の本校の結果を見ると、これまでの調査と比べて、学力は着実に伸びており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、家庭とも連携した取組を一層推進してまいります。